

2019年12月期 決算説明

**2020年3月
市光工業株式会社**

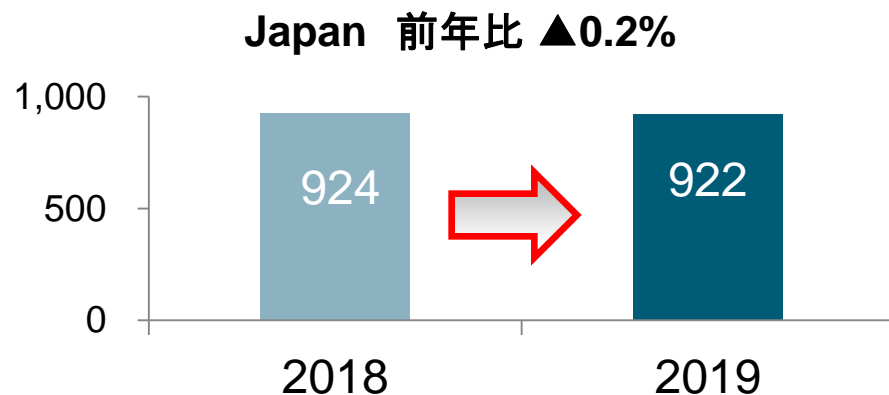
目次

- 2019年12月期業績概要（2019年1月～2019年12月）
- 2020年12月期業績見通し（2020年1月～2020年12月）

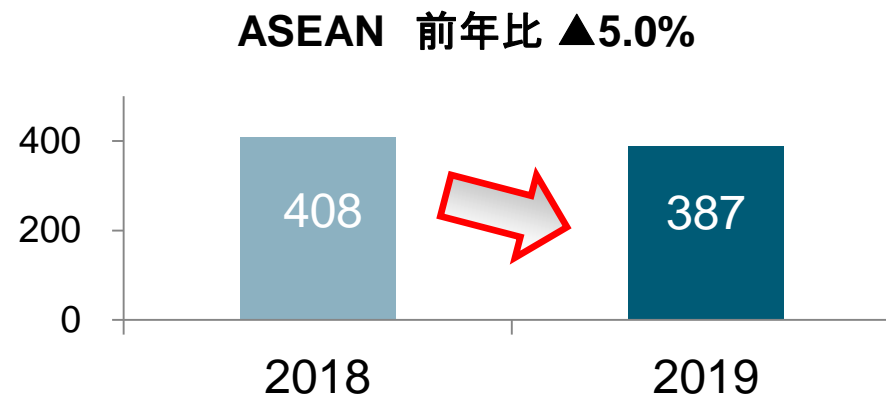
2019年12月期業績概要 (2019年1月~12月)

地域別自動車生産台数 前年比較（速報ベース）

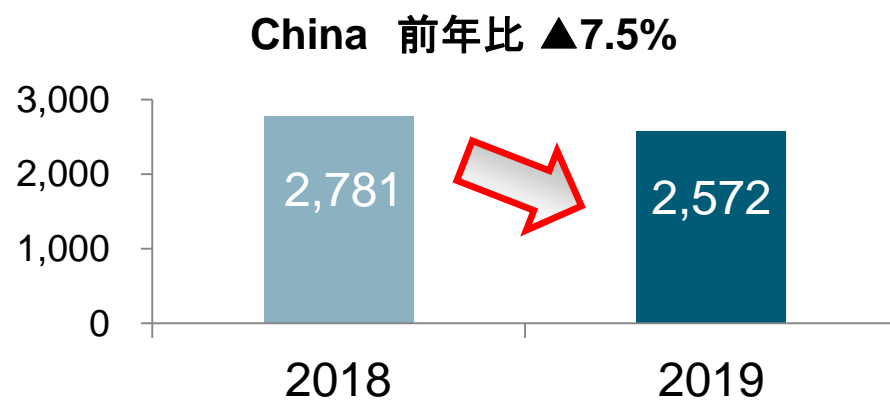
単位：万台



日本は中大型商用車含まない台数



ASEAN: マレーシア, インドネシア, タイ



出展: MarkLines

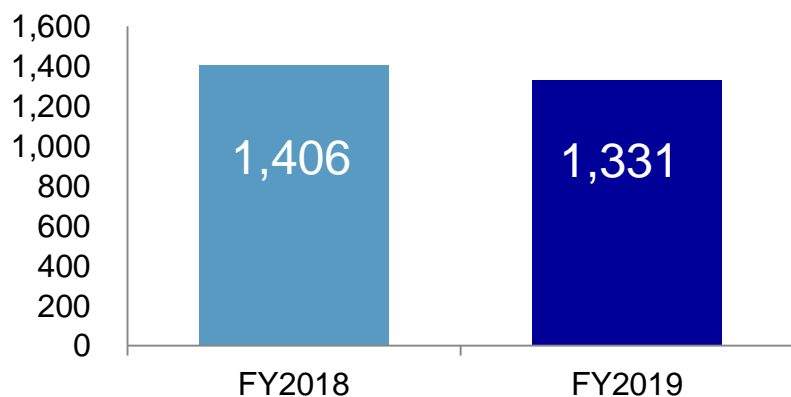
2019年12月期 連結業績概要（対前年比較）

単位：億円/四捨五入

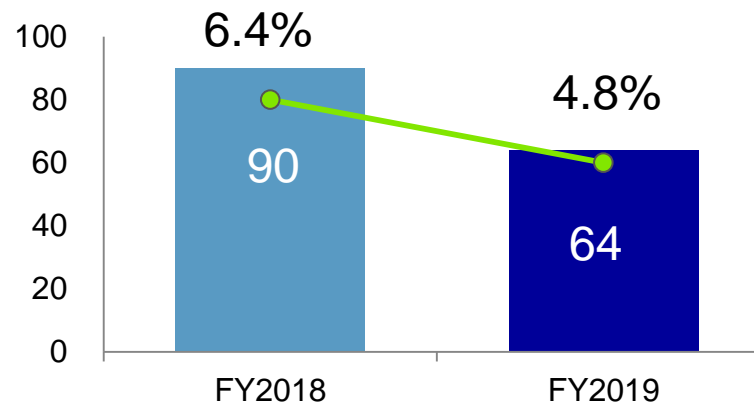
◆ 昨年と比較し減収減益も、過去2番目の売上及び営業利益

	FY2018 (2018年1～12月)	FY2019 (2019年1～12月)	増減額	増減率
売上高	1,406	1,331	▲75	▲5.4%
営業利益	90	64	▲26	▲28.5%
営業利益率	6.4%	4.8%	-	▲1.6ポイント
経常利益	97	74	▲23	▲24.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	98	52	▲45	▲46.5%

連結売上高推移



連結営業利益推移



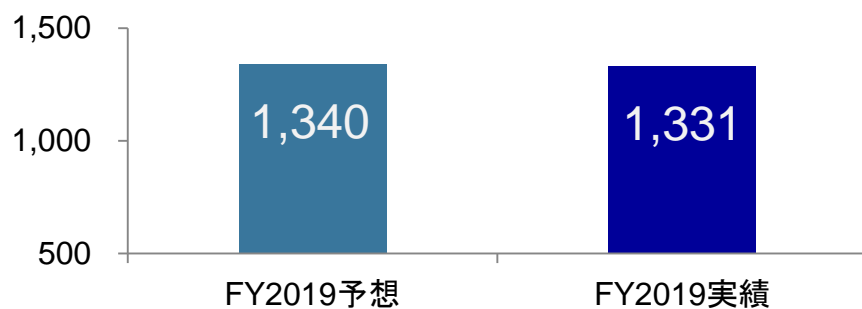
2019年12月期 連結業績（対予想比較）

単位：億円/四捨五入

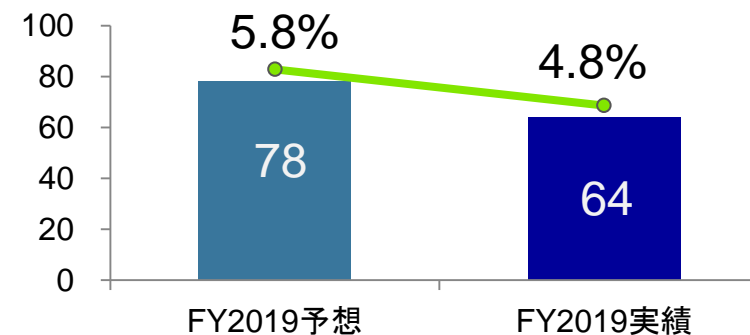
- ◆ 売上高予想とほぼ同等を達成
- ◆ 営業利益は費用増（研究開発費等）などから減益
- ◆ 持分法利益計上で、経常利益は予想並み、当期純利益は予想を超過達成

	FY2019 予想 (2019年1~12月)	FY2019 実績 (2019年1~12月)	増減額	増減率
売上高	1,340	1,331	▲9	▲0.1%
営業利益	78	64	▲14	▲17.9%
営業利益率	5.8%	4.8%	-	▲1.0ポイント
経常利益	74	74	0	0.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	50	52	2	3.8%

連結売上高比較



連結営業利益比較



2019年12月期 拠点別業績

単位：億円/四捨五入

- ◆ 国内は売上減少と費用の増加から減益
- ◆ 海外はA S E A N計で増収増益、中国は売上減等から減益

	日本 (市光工業)	海外	その他	内部取引 消去等	合計
売上高	1,023 (1,097)	246 (249)	107 (110)	▲45 (▲48)	1,331 (1,406)
営業利益	51 (66)	17 (22)	1 (2)	▲5 (0)	64 (90)
営業利益率	5.0% (6.0%)	6.9% (8.9%)	1.1% (2.2%)	-	4.8% (6.4%)

市光工業：単体ベース（伊勢原・藤岡・ミラー・本社）

海外：インドネシア・マレーシア・タイ・中国

その他：用品事業（PIAA）・バルブ製造販売事業（Life Elex）

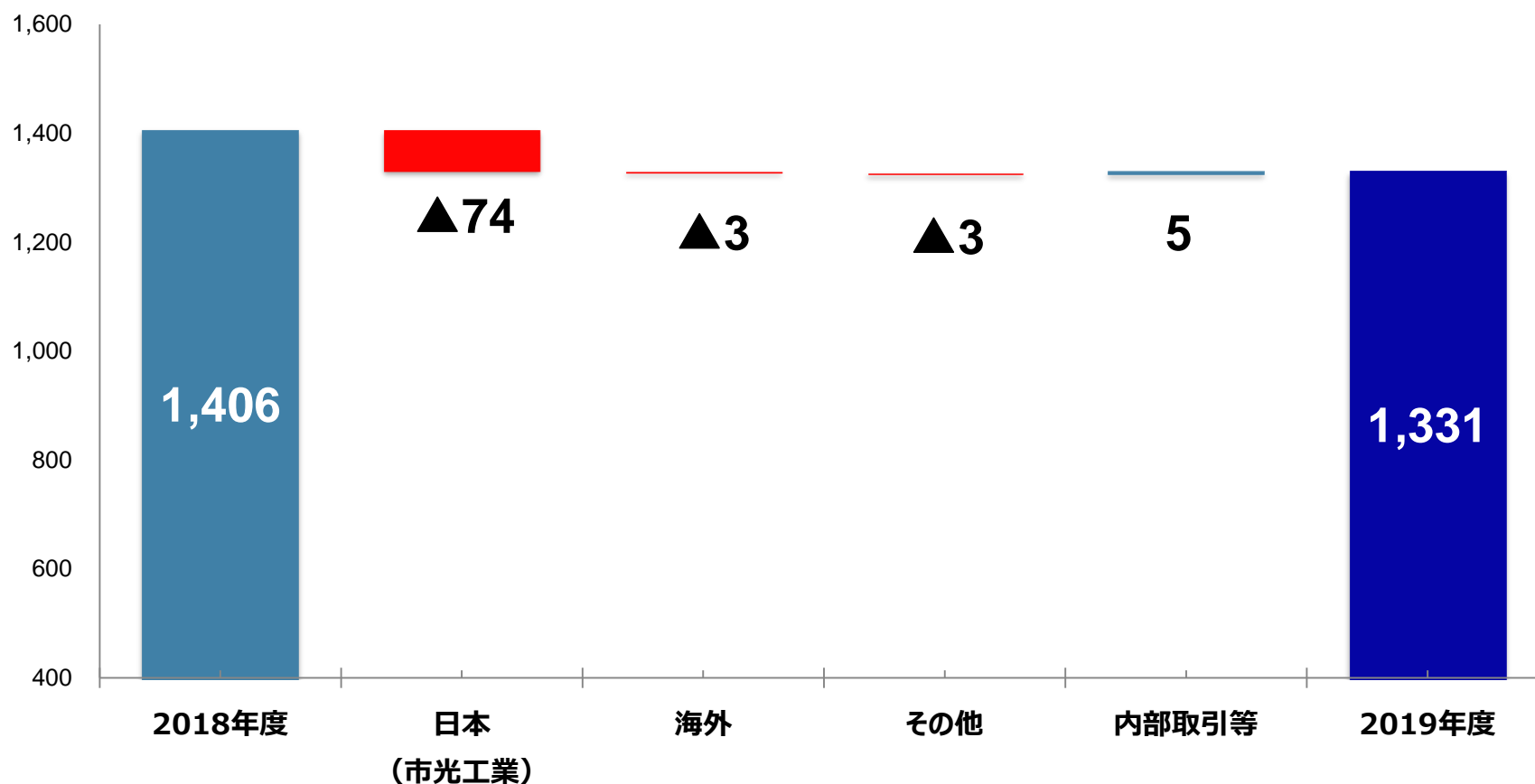
（ ）：前年同期（2018年1月-12月）の数値

2019年12月期 業績のポイント

【売上高】

単位：億円/四捨五入

- ◆ 国内の減収により前年同期比▲75億円（▲5.4%）
- ◆ 海外はASEAN計で増収も、中国の減収によりトータルで減収

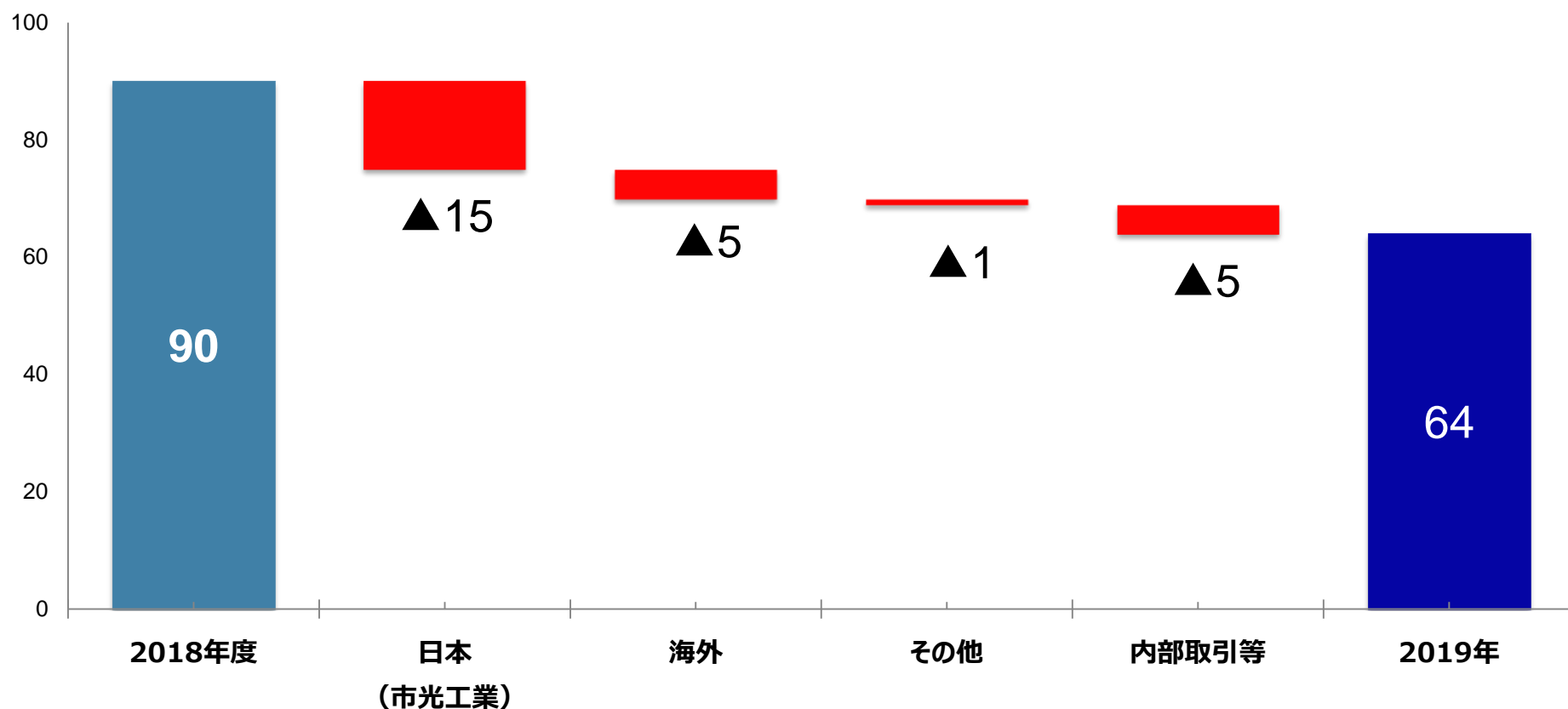


2019年12月期 業績のポイント

【営業利益】

単位：億円/四捨五入

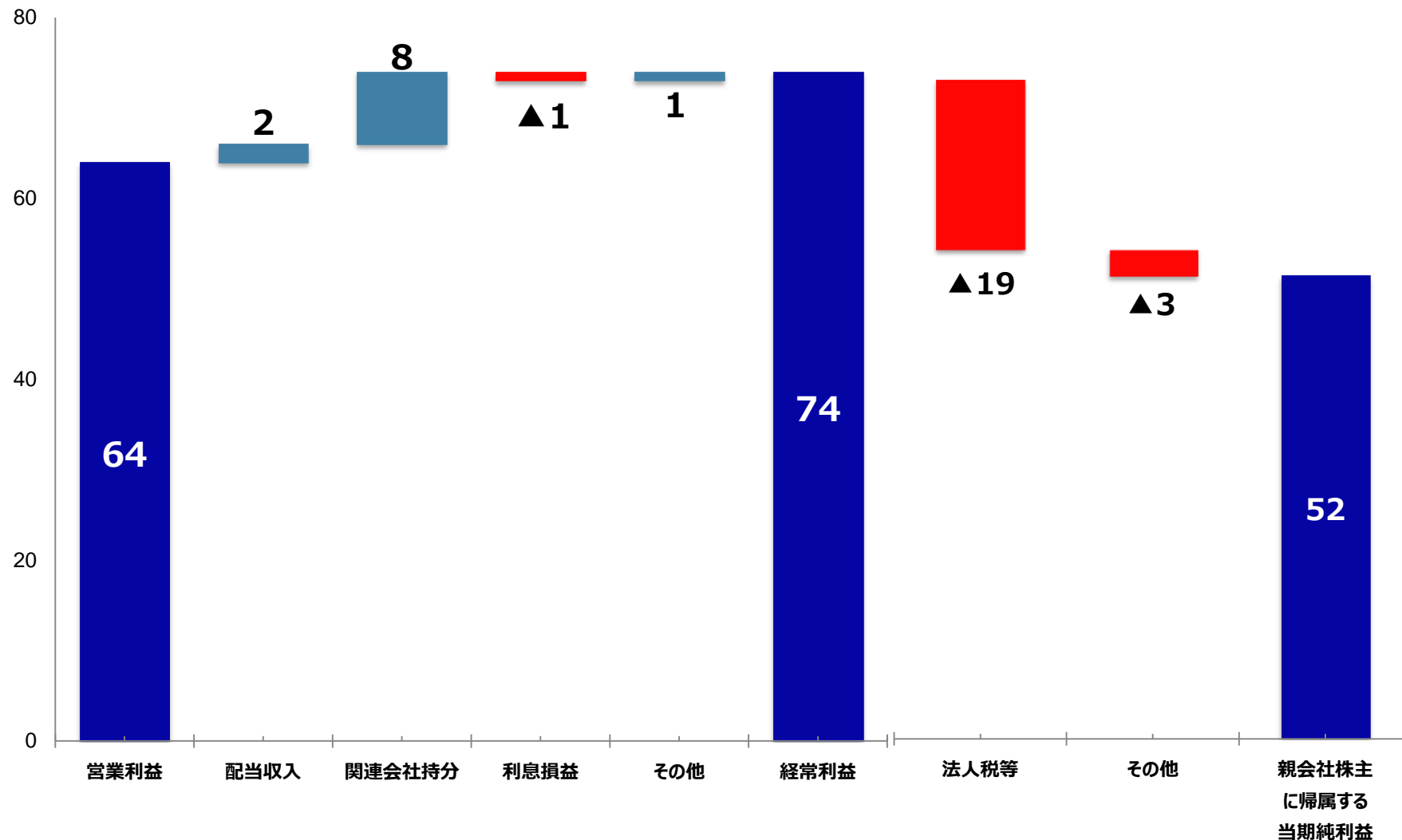
- ◆ 国内は売上の減収及び研究開発費の増加により減益
- ◆ 海外はASEAN計で増益も、中国の減益によりトータルで減益



2019年12月期 業績のポイント

【営業利益～経常利益～親会社株主に帰属する当期純利益】

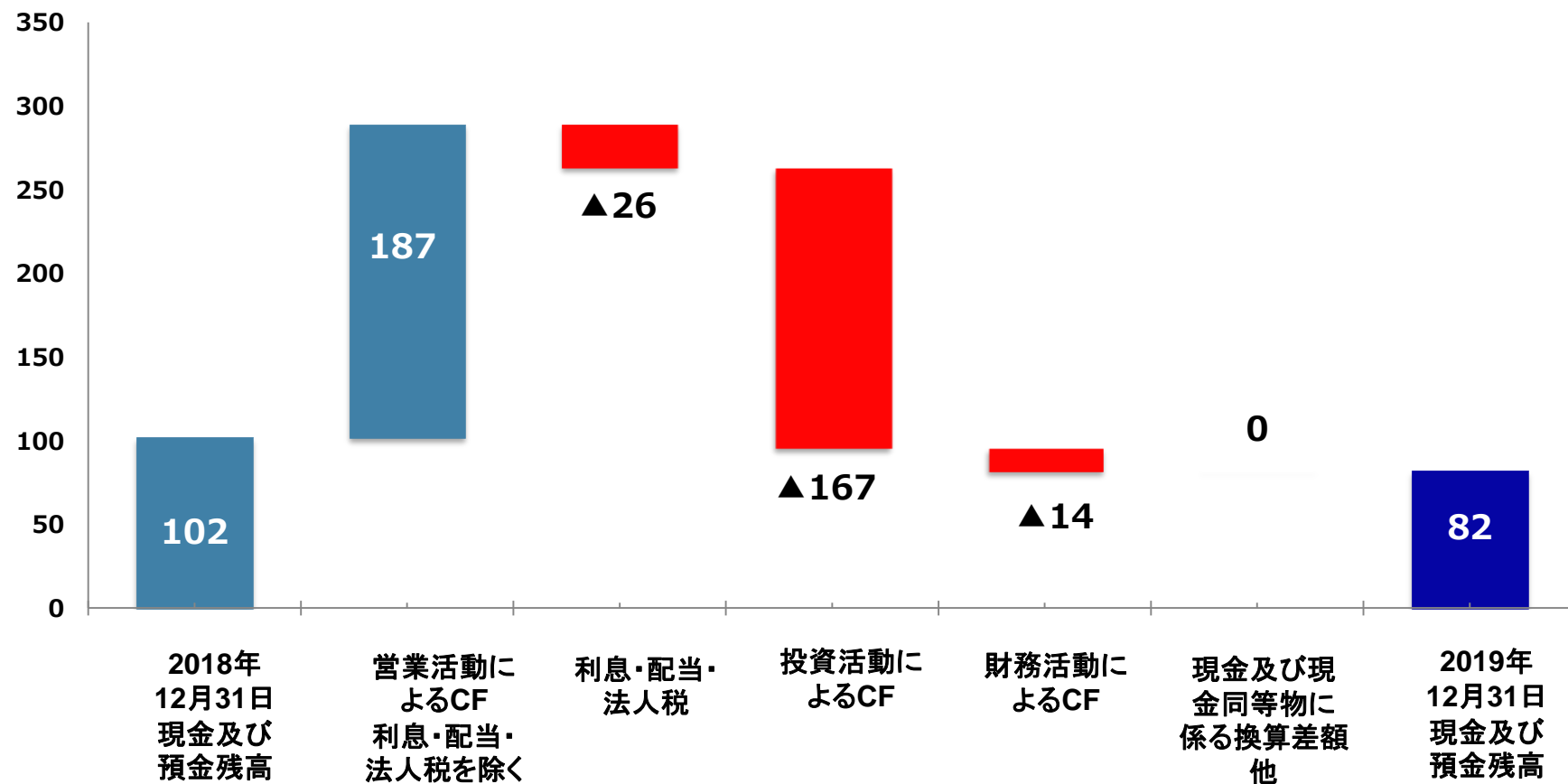
単位：億円/四捨五入



連結キャッシュフロー（前年度末からの増減）

単位：億円/四捨五入

◆ 営業活動によるCFを主に投資へ充当



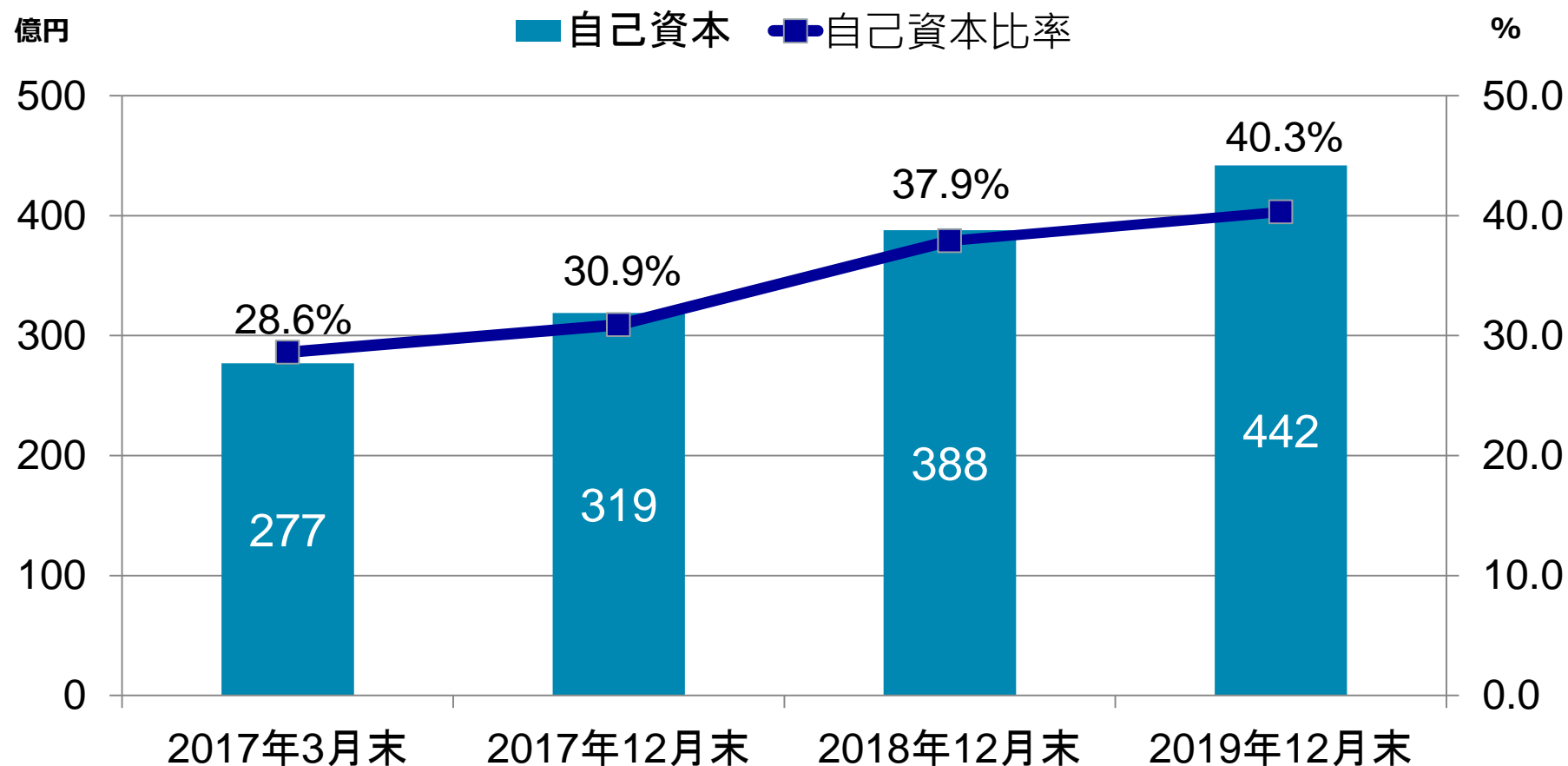
連結貸借対照表（前年度期末比）

単位：億円/四捨五入

	2018/12	2019/12	増減
現金及び預金	102	82	▲20
棚卸資産	75	93	18
有形固定資産・無形固定資産	404	440	36
その他	443	483	40
資産の部	1,024	1,098	74
有利子負債	128	123	▲5
その他	496	521	25
負債の部	624	644	20
株主資本	412	457	45
その他包括利益累計額	▲24	▲15	9
非支配株主持分	12	12	0
純資産の部	400	454	54
自己資本比率	37.9%	40.3%	
D/E比率	32.9%	27.9%	

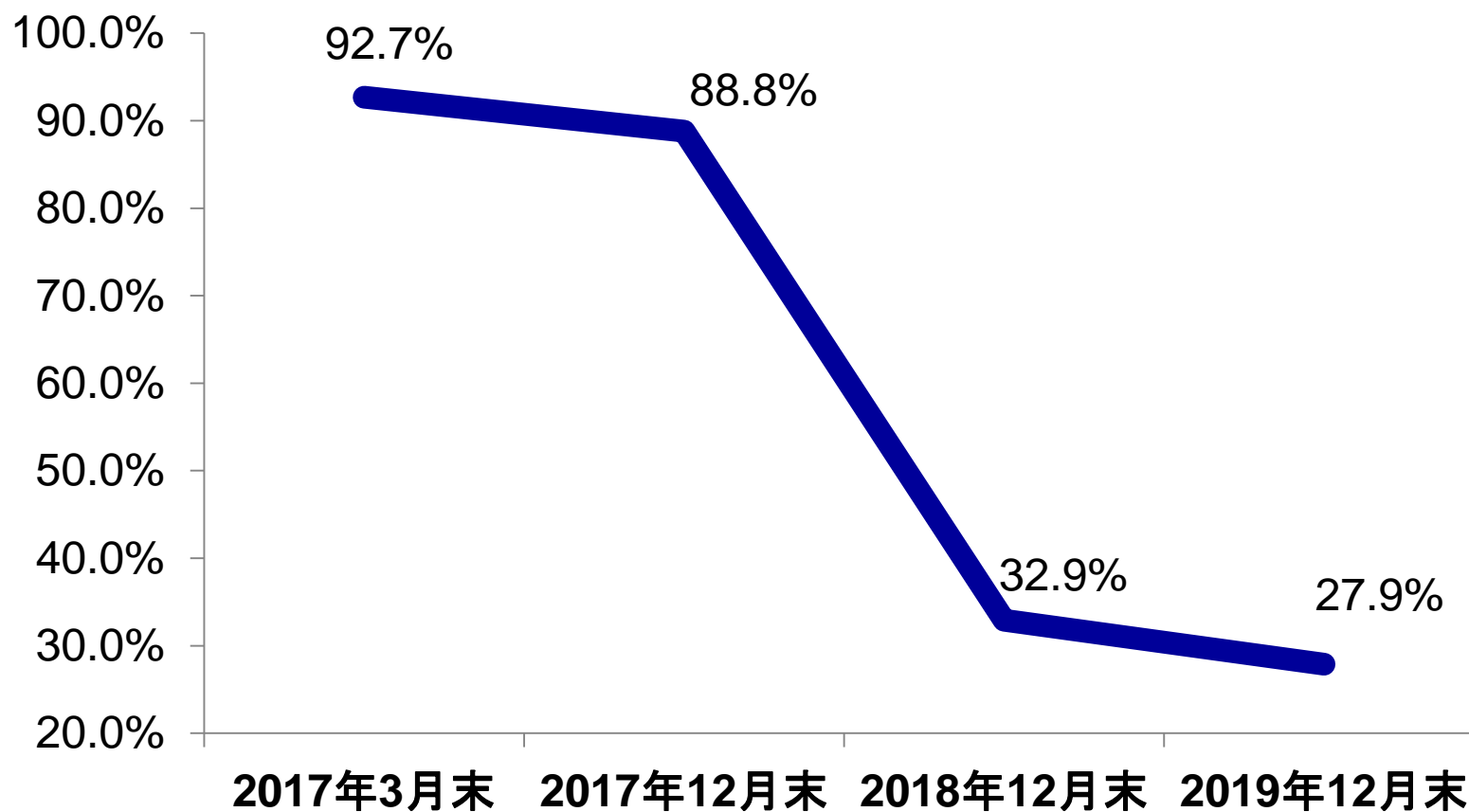
自己資本額と比率

自己資本比率は40%を突破



D/E レシオ

D/E レシオも大幅に低下



2020年12月期業績見通し (2020年1月～12月)

2020年1月～20年12月 連結業績見通し

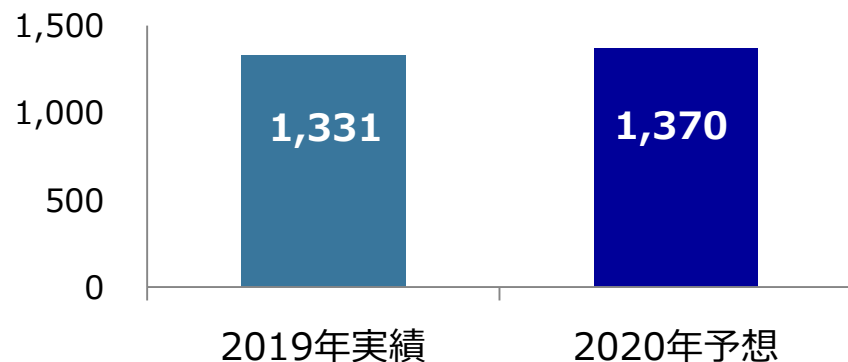
単位：億円/四捨五入

◆ 前年同期比 増収増益を見込む

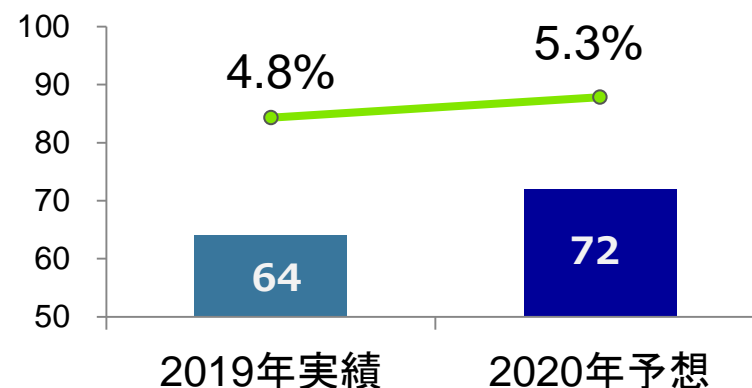
◆ 本業績見通しには、現段階での算定が困難であるため、コロナウィルスの影響は反映していない。

	19年12月期 (19年1～12月実績)	20年12月期 (20年1～12月予想)	増減額	20年12月中間期 (20年1～6月予想)
売上高	1,331	1,370	39	660
営業利益	64	72	8	29
営業利益率	4.8%	5.3%	-	4.4%
経常利益	74	77	3	31
親会社株主に帰属する 当期純利益	52	55	3	23

連結売上高推移



連結営業利益推移



2020年1月～20年12月 拠点別業績見通し

単位：億円/四捨五入

- ◆ 国内：輸出車種を中心とする数量減と減価償却費増により減収減益を見込む
- ◆ 海外：タイでの新規立上げ等によりASEANの増収増益を見込む

	日本 (市光工業)	海外	その他	内部取引 消去等	合計
売上高	1,018 (1,023)	280 (246)	111 (107)	▲39 (▲45)	1,370 (1,331)
営業利益	40 (51)	28 (17)	4 (1)	0 (▲5)	72 (64)
営業 利益率	4.0% (5.0%)	10.1% (6.9%)	3.6% (1.1%)	-	5.3% (4.8%)

市光工業：単体ベース（伊勢原・藤岡・ミラー・本社）

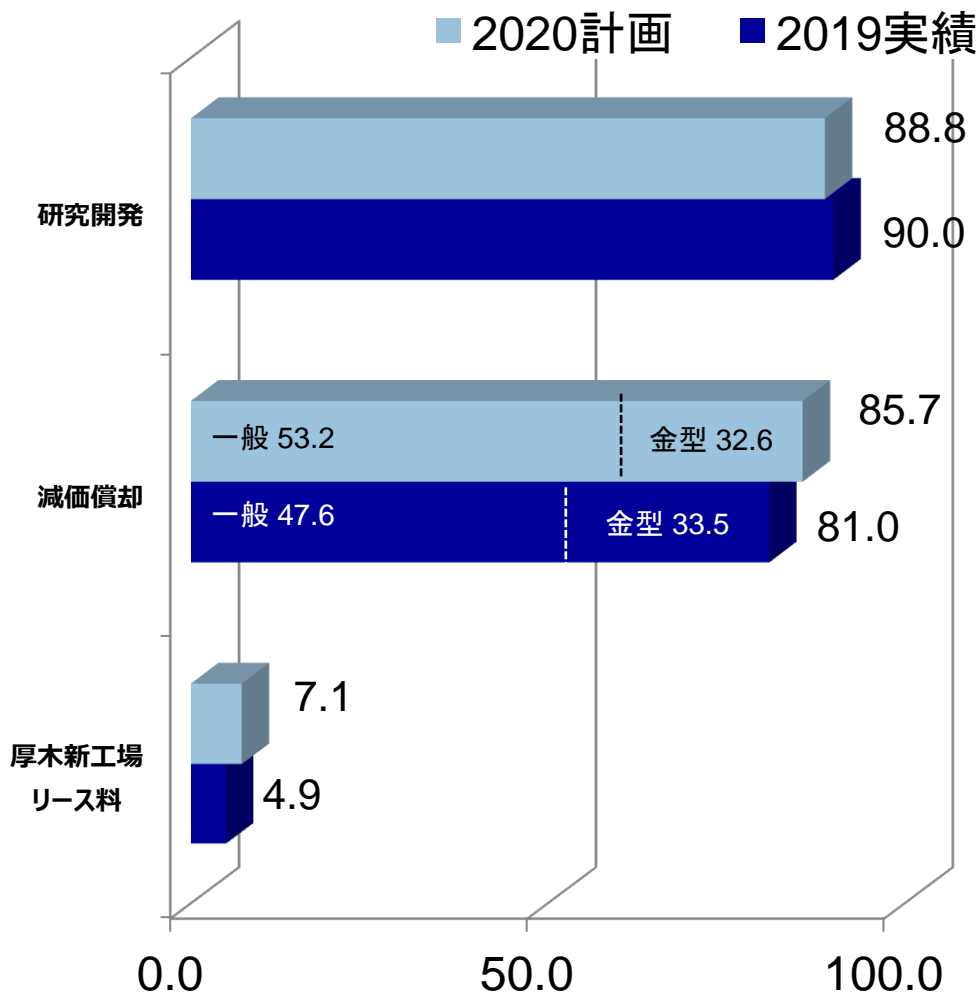
海外：インドネシア・マレーシア・タイ・中国

その他：用品事業(PIAA)・バルブ製造販売事業(Life Elex)

()：前年同期（2019年1月-12月）の数値

2020年12月期 設備投資・減価償却費・リース料・研究開発費 計画

単位：億円/四捨五入



✓ 売上高比率6%超の高水準の研究開発費継続、ただし、対前並みの水準に抑制

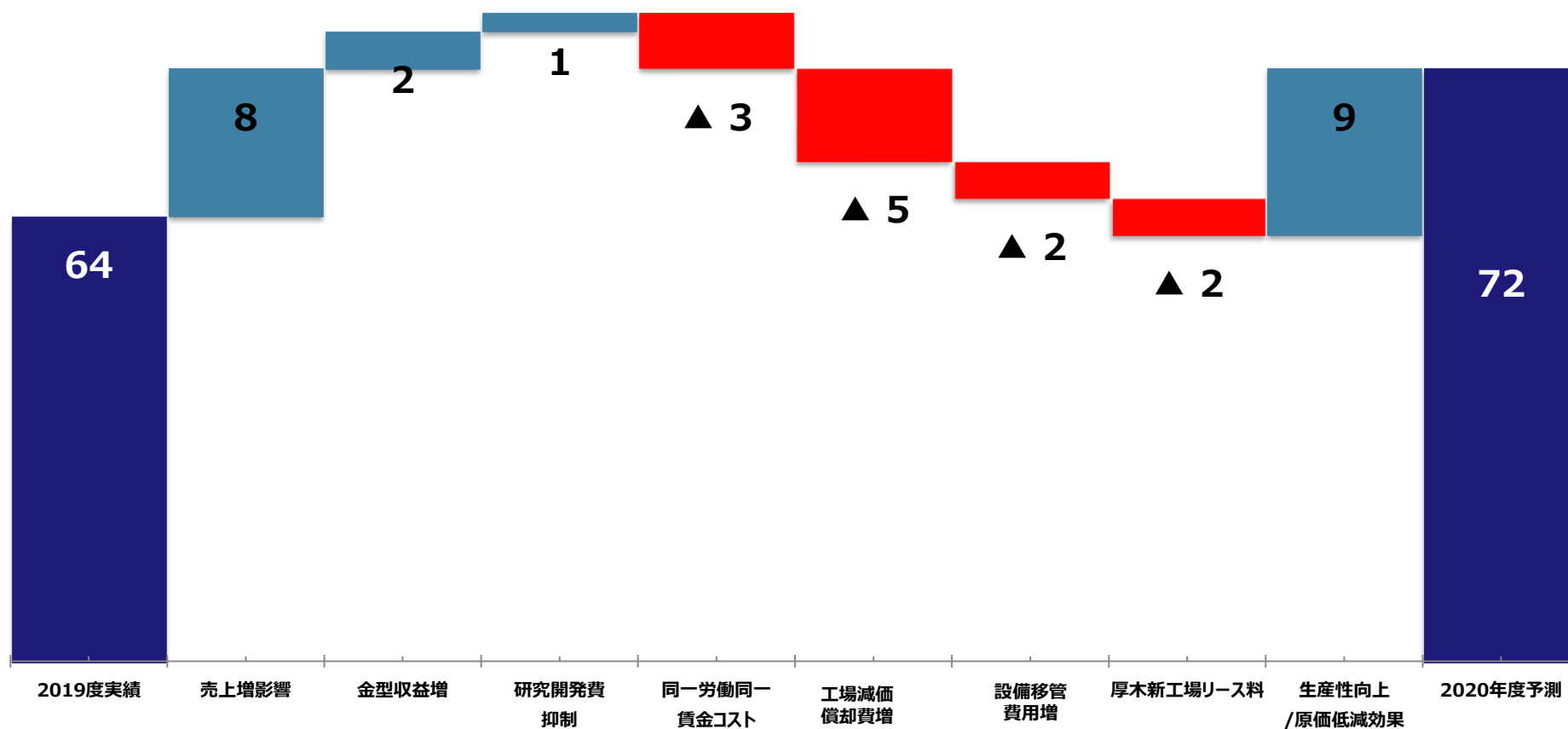
✓ 設備投資の進捗に伴い、一般投資分減価償却額が増加

✓ 土地・建物につきオペレーティングリース活用 (厚木工場)
 ✓ 2019年4月よりリース料支払い開始
 ✓ 2020年は通年でリース料発生

※研究開発費には、試作費、PJ開発コストを含む

2020年12月期 営業利益のポイント

単位：億円/四捨五入



2020年12月期 業績見通し・中期計画達成のポイント

受注の獲得

- ✓ 足元の新規受注は順調、21年以降の売上貢献
- ✓ ヴアレオとの共同開発技術の積極的提案
- ✓ 他方、想定数量の減少（e.g. 輸出車）、競争激化による単価低下への対応が喫緊の課題

生産効率の向上

- ✓ ヘッドランプ：厚木工場新設による能力増強・生産性向上
立ち上げ時のロス最小化が課題
 - ✓ リアコンビネーション：藤岡製造所の更新投資は完了
 - ✓ インドネシア：レイアウト変更による生産性向上、投資完了
 - ✓ 中国ミラー：新自動化塗装ラインの稼働開始
- ➔ 年間8~10億円の生産性向上効果を目指す

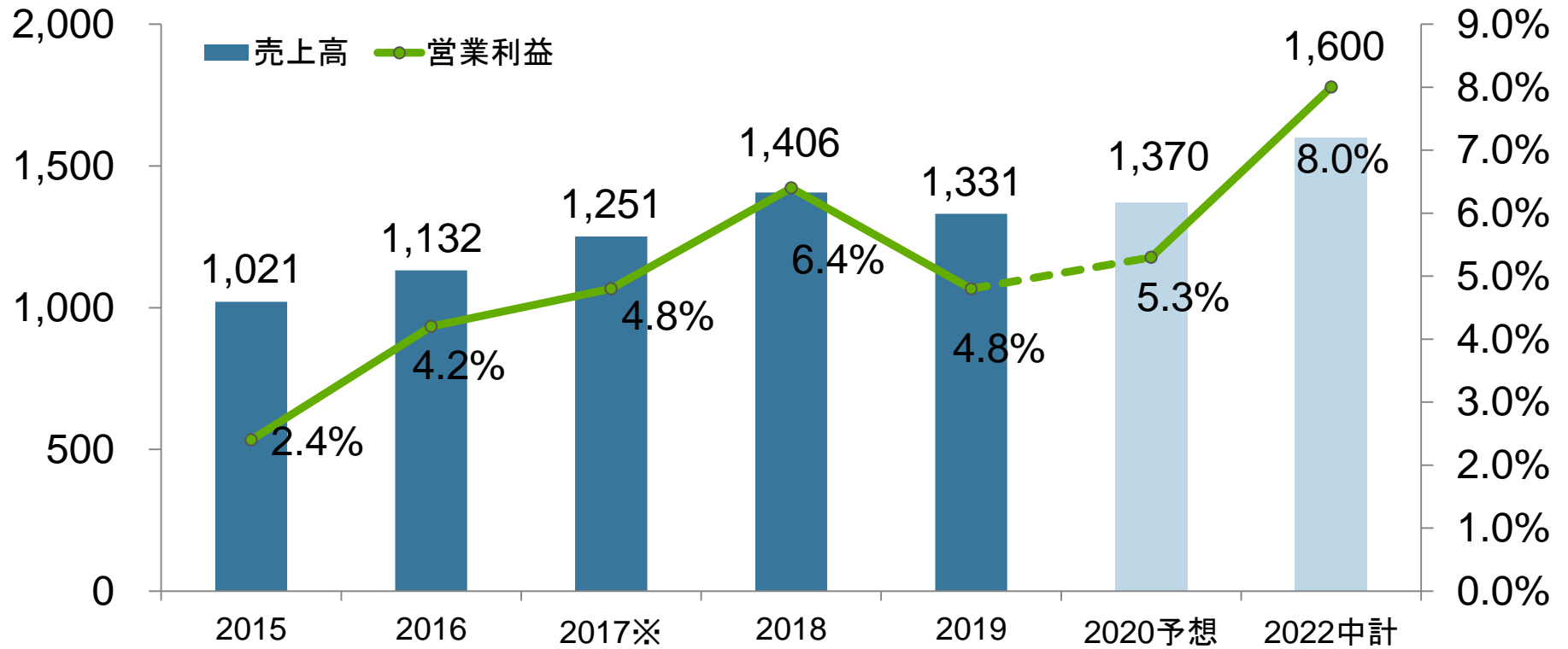
研究開発費 上昇抑制

- ✓ プロジェクト案件数の増加、製品の高度化による開発工数の増加が上昇の主要因
- ✓ ヴアレオ・市光のLCC開発拠点の活用加速化
- ✓ R&Dコストコントロール部署を強化。ヴァレオの管理手法を用いた開発コスト管理を徹底

業績の推移と今後の計画

単位：億円/四捨五入

中期計画に定めた水準に沿って推移

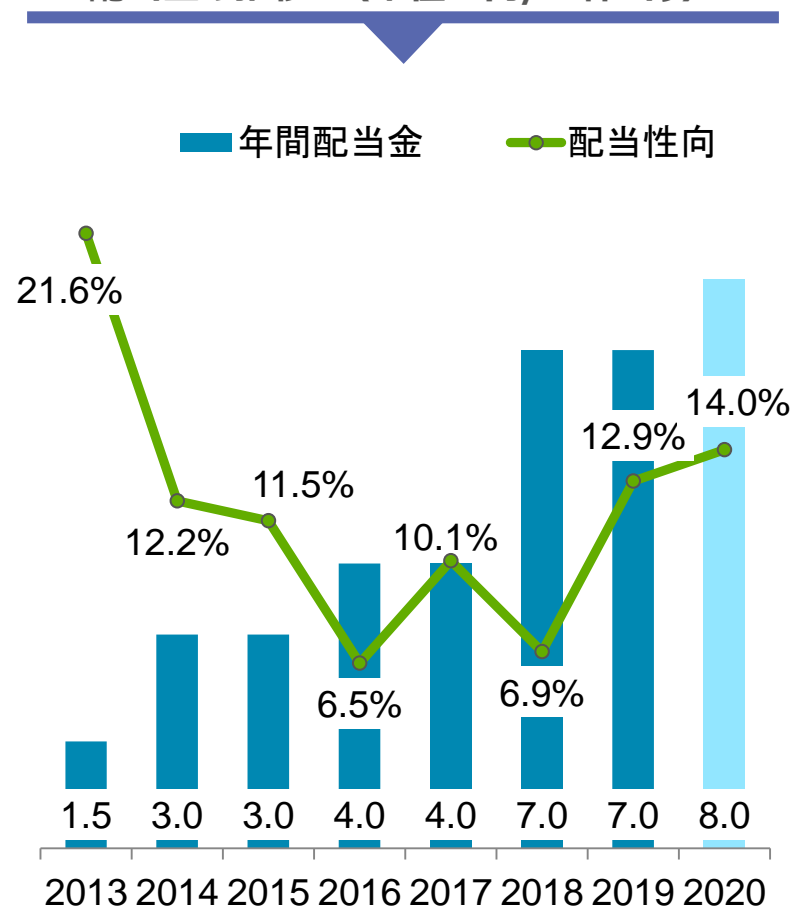


※2017年度(17年1月～12月の期間で換算)

配当政策及び配当性向

単位：億円/四捨五入

配当金の推移（単位：円/1株当り）



基本方針

- (1) 内部留保を活用した研究開発及び設備投資により企業価値の向上を図ること
- (2) 株主の皆様に対する利益還元の上昇を図ってゆくこと
- (1)(2)の双方を達成すること

2019年 期末配当

- ✓ 厳しい競争環境を勝ち抜く競争力を確保するための旺盛な技術開発の資金需要があること
- ✓ 配当性向は昨年を上回る水準を確保することなどを総合的に考慮
- ✓ 昨年同額の年間配当7円を維持

2020年 12月期の配当予想

- ✓ 増収増益を確保できる見通しであること
- ✓ 配当性向の更なる向上を図る観点
- ✓ 1円増配の年間配当8円を予定

更なる安全性向上に向けた 市光・ヴァレオ共同開発技術の一例

高解像度ヘッドランプ “Monolithic”

新しいマイクロLEDアレイ光源と電子デバイスによって、
光をピクセル単位でコントロールし、ドライバーの運転をサポートする技術



眩しさを与えないハイビーム

路面描画による運転支援

予測に関する注意事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、市光工業株式会社（以下、当社）が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、今後様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

ご利用に際しては、ご自身の判断で御願ひ致します。資料に記載されている見通しなどに基づいて投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失についても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権は当社に帰属します。いかなる理由によっても当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

ICHIKOH
a Valeo company